

## 2019年度GSK医学教育事業助成の概要

学会名

日本プライマリ・ケア連合学会

正式名称

誤嚥性肺炎の多職種連携スキルアッププログラム

Japan Aspiration pneumonia inter Professional team Educational Program (JAPEP)

\*以下本プログラムはJAPEPと呼称する

医学教育事業の概要

- ・誤嚥性肺炎診療に関する6つのコンポーネントごとの教育プログラム作成
- ・教育プログラムを用いたJAPEPセミナーの開催
- ・教育コンテンツを標準テキスト+eラーニングシステムで運用

医学教育事業の対象者 (100文字以内)

主な医療関係者： 医師  歯科医師  薬剤師  看護師  
 その他（歯科衛生士、栄養士、リハビリセラピスト）

対象となる医療関係者の想定人数：約1万人

医学教育事業の必要性 / 目的

誤嚥性肺炎の診療では感染症、リハビリテーション、臨床栄養学、医科歯科連携、せん妄予防、認知症診療、ポリファーマシー対策、食事介助および食事形態の工夫、嚥下機能評価、さらには倫理的問題への対応などの包括的な診療能力が求められる。つまり、医師や看護師だけでなく、歯科医師、歯科衛生士、リハビリテーションセラピスト、管理栄養士、介護士、薬剤師、など多種多様な職種が、高い共通理解の下で連携する必要がある。本教育プログラム(JAPEP)は、誤嚥性肺炎の診療の質向上を目的として、診療にかかわるすべての職種を対象として開発する統合教育プログラムであり、すべての誤嚥性肺炎患者の福音となることを目指す。

医学教育事業の計画・方法等

JAPEPは、誤嚥性肺炎診療に必要な以下の6つのコンポーネントから構成される。

- ① 呼吸器・感染症  
呼吸器内科や感染症内科医が適切な抗菌薬治療や呼吸器内科的な介入について教育プログラムを作成する。
- ② リハビリテーション・栄養  
リハビリテーション医師、セラピスト、管理栄養士が中心となるチームで、嚥下評価や嚥下リハビリテーション、リハビリテーション栄養のプログラムを作成する。
- ③ 歯科・歯科衛生  
歯科医および歯科衛生士による口腔ケアは重要であり、口腔ケアや医科歯科連携の有効なプロトコルを作成する。
- ④ 臨床倫理・ソーシャルワーク  
臨床倫理に造詣が深い看護師や総合診療医、そしてソーシャルワーカーが中心となるチームで開発する。
- ⑤ 老年医学・薬剤  
精神科医や老年科医師、薬剤師が中心となりせん妄や認知症、薬剤副作用への対応を扱う。
- ⑥ 看護・介護  
看護師や介護士が中心となったチームで誤嚥性肺炎に必要な介護・看護の教育プログラムを作成する。  
プログラム開発後は、それを用いたJAPEPセミナーを全国各地で開催して、より多くの参加者に参加してもらう。希望者は特定の研修後にインストラクターとなることができるプロセスを整備して、全国で研修が実施できる体制の構築を図る。  
開発した教育プログラムは標準テキスト+eラーニングの形で、学会員以外を含めて広く公開する。JAPEPの対象者は全ての医療従事者であり医師に限定しない。また、学会員にも限定しない。

医学教育事業の効果の測定方法

- ・JAPEPセミナー受講前後における臨床スキル評価  
セミナー受講前後に、アンケートにて評価する。単なる想起・知識レベルの問題はできるだけ避け、実際の臨床技能（症例を提示し、食事を開始するタイミングを尋ねる）や現場での行動・態度（多職種へ具体的にやり取りする方法）に重点を置く。
- ・フォローアップ評価  
実際の臨床技能や現場での行動・態度の変化に関する評価とそれに基づくプログラムの改善を図るために、受講3か月後にフォローアップ評価を行う。評価内容は質的研究、量的研究、もしくは混合研究として論文化してJAPEPのコンセプトを国内外に広く普及させることを目指す。

医学教育事業の成果に対する情報共有について

- ・学会内の周知  
日本プライマリ・ケア連合学会の会員用の公式メーリングリストや、学会実践誌に案内を同封して行う。
- ・学会外への周知  
Face book、Twitterなどのソーシャルメディア、総合診療領域のメーリングリストを活用して情報発信を行う。
- ・成果の共有方法  
本事業のホームページを作成し、レクチャーの動画や資料を公開し、多くの人が閲覧することを目指す。レクチャーの動画（一部）をYouTubeなどの無料動画サイトにアップする。